

唯一無二の大学を目指す ものつくり大学20周年式典

ものつくり大学は1日、行田市の同大学で開学20周年記念式典を開いた。式典で赤松明学長が「教育改革を実践し、必要とされる唯一無二の大学になる」などとするものつく

り大学の2030将来ビジョンを発表した。式典には来賓として大野元裕県知事、石井直彦行田市長らが出席し祝辞を述べた。赤松学長は将来ビジョンと

して、教育改革実践のほか、研究成果の循環、運営組織の強化、地域連携の加速ーの計4点を推進していくと強調した。教育改革を実践すること

で学修者が主体的に学び自律する人材を育成する。

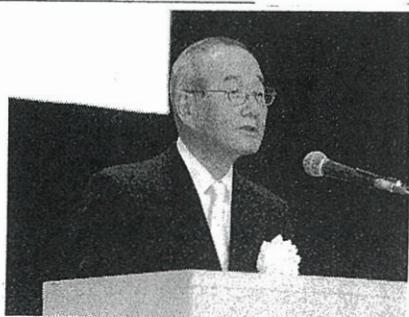
式典終了後、日本総合研究所会長で同大学理事を務める寺島実郎氏が「ポストコロナ時代の日本の針路ーものづくり」という基軸こと題して講演。

約300人が聴講した。

ものつくり大学は2001年4月、行田市に開学。総合機械学科と建設学科を持ち、理論に技術・技能を併せ持つ人材を育成し、開学以来約4千人を社会に輩出している。



2021年(令和3年) 11月2日 火曜日



式典で2030将来ビジョンを発表する赤松明学長=1日、行田市前谷のものつくり大学